

# 介護付き旅行を気軽に

「年をとって体が弱っても旅行や遠出がしたい」。こうした要望に配慮するNPOの取り組みが広がりをみせつつある。

道内を含む全国8地区のNPOがネットワークづくりを始めたほか、6月には道央で新たな団体も始動。介護付き旅行がしやすくなってきた。

(編集委員 二階堂敏文)

旭川市に住む70歳の女性は4月、60代の友人と4泊5日で九州を旅行した。長い距離は歩かず車椅子が必要で、友人もつえが離せない。それでも各地の観光スポットを満喫。「安心して楽しい旅行ができた」と振り返る。

旅行をサポートしたのは旭川のNPO法人「旅とびあ北海道」(下間啓子代表理事)。1999年から障害者と高齢者の旅を支援す

## NPOの支援 全国に拡大

る活動を続けている。同法人の特徴は、地元・旭川のほか札幌、函館、小樽、北見などで、車椅子の利用者らを介助できる知識・技能を持つ「トラベルサ



九州の観光地をサポートする2人の介護で訪れた2人のお年寄り。「体の状態に合わせて旅程を組んでくれたのでストレスを抱えずに旅行ができた」という(「旅とびあ北海道」提供)

## 主要都市にサポーター／ネットワークで推進

「サポーター」を養成していることだ。道内主要都市にサポーターを配置し、旅先で介助できる態勢を整える。そうすれば介護付き旅行もしやすくなるの考えだ。「現地に介助者がいることで費用負担も含め、より効果的、効率的な旅が提供できる」と下間さんは話す。こうした仕組みを全国に展開しようと、旅とびあのほか新潟、東京、横浜、神戸、高知、熊本、沖縄のNPOは昨年、「日本ユニバース」が推進ネットワーキング(事務局・神戸)を結成。今年秋には全国ツアーを開くなど活動を広げつつある。旭川市の女性もこのネットワークを活用。現地では熊本のNPOのサポーターが手助けしてくれた。「7月には兵庫の80代女性がネットワークを生かし道内旅行をする」(下間さん)といい、旅とびあが支援する。新たなNPOも登場している。6月には江別市で高齢者の外出同行サービスを「シャペロン」が開始。名称はフランス語で貴族の「付き添い」を意味するとい、スタッフは保健師や介護ヘルパー、主婦ら10人。代表の小野さゆみさん(49)は「墓参りから旅行まで、きめ細かく対応したい」と話す。介護付き旅行の関連では、東京のNPO法人「日本トラベルヘルパー協会」が独自の資格制度として「トラベルヘルパー」の養成を行っており、道内にも近く資格取得者が誕生するという。

介護付き旅行をする場合、費用はどのくらいかかるのだろうか。旅とびあ北海道の下間啓子さんによると、介助の程度、出発地からサポーターが同行するか、旅先だけの介助か、など個々のケースで介助料金は違ってくる。「サポーターの料金は介助が軽度の場合は1時間2千円、重度の場合は4千円がめど」といい、サポーターの交通費や食費、宿泊費などは別扱いとなる。九州を旅行した車椅子の女性のケースに当てはめると、介助費用は1日8時間で2万4千円。介助も含めた旅費は約30万円だったという。

### 介助費用はどのくらい

シャペロンの場合は1時間5千円で、交通費などは別。3時間を超える外出同行は個別に見積もりして対応する。東京のNPOが養成している「トラベルヘルパー」は、介助が軽度(介護保険の要支援程度)だと1日8時間で2万1千円、中度(要介護1、2程度)は2万4千150円、重度(要介護3〜5)は2万6千250円が基本料金となっている。料金はケースごとに異なるため事前の相談、調整が必要だ。問い合わせ先は、旅とびあ01166・32・3910、シャペロン011・5588・25052。